

I 学校名 蘭越町立昆布小学校【後志管内】

『自分の考えを持ち，説明できる子の育成』～やる気・やさしさ・ときめき いっぱい～

II 研究の概要

1. 研究主題について

**言葉を通して見方・考え方を深め，つながり，ひろがりを創り出す子の育成**  
～確かで豊かな読解力を高める授業づくり～

2. 主題設定の理由

グローバル化の拡大や人工知能（AI）の急速な進化など，人間の予測を超えて社会は加速度的に進展している。こうした「知識基盤社会」では，これまで習得してきた知識がそのままでは役に立たず，自らの知識を更新するために絶えず学び続ける姿勢が求められる。かつて正しいと思われていたことが必ずしも正しいということにはならず，状況に応じた適切な解をみんなで力を合わせて追究していく能力が求められる。学習指導要領では，主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して，創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で，「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の実現を図り，「生きる力」を育成するものとしている。「主体的対話的で深い学び」のためには，言語能力を育てるための言語活動の充実が重要であると考え。学習活動中での言語活動を充実させるため，国語科のみならず，他教科でも，言葉や図，表，式などを関連させて考えたり，説明したり，話し合ったりする活動に重きを置いてきた。他者に伝えることを意識し，自分の思いや考えをわかりやすく説明できるようにノートに書く活動にも力を入れてきた。言語能力の育成，授業力の向上に向けた取り組みに重点をおき，つながり，ひろがりを創り出す子の育成を目指していく。

3. 研究仮説・研究の視点

<p>【仮説1】 思考を大切にした学習過程を確実にし，読解力と語彙力を身につけることで，言葉を通して人を理解し，考えたことを適切に表現することができる。</p>	<p>【視点1】 確かで豊かな読解力を高める授業づくり ①各学年の指導事項と系統性の明確化 ②主体的対話的で深い学びをつくり出す学習過程 ③確実な定着のための指導方法の研究 ④ねらいに即した言語活動の充実</p>
<p>【仮説2】 個の学び，集団の学び，さらに次の課題へと向かう学び方を身につけることで，主体的な学びが持続し，学習への「つながり」「広がり」を持たせることができる。</p>	<p>【視点2】 子どもが主体的に学び続けるための学習 ①自己肯定感を高める学級づくり ②ノート指導 ③学習リーダーの育成 ④振り返り活動の充実</p>

III 実践例

1. 仮説の検証

(1) 【視点1】 確かで豊かな読解力を高める授業づくり

① 各学年の指導事項と系統性の明確化

ア はじめに

文章を論理的に読んでいくために「知識・技能」の習得が必要である。

各学年において身に付けさせたい「知識及び技能」について系統性をもたせ指導していく。

イ 説明文の系統的指導に向けて

各学年において，身に付けさせたい事柄について確認する。

また，各学年の教材とのかかわりについても確認して学習を進める。

物語文も説明文と同様に，当該学年における「児童に付けたい力」について確認している。

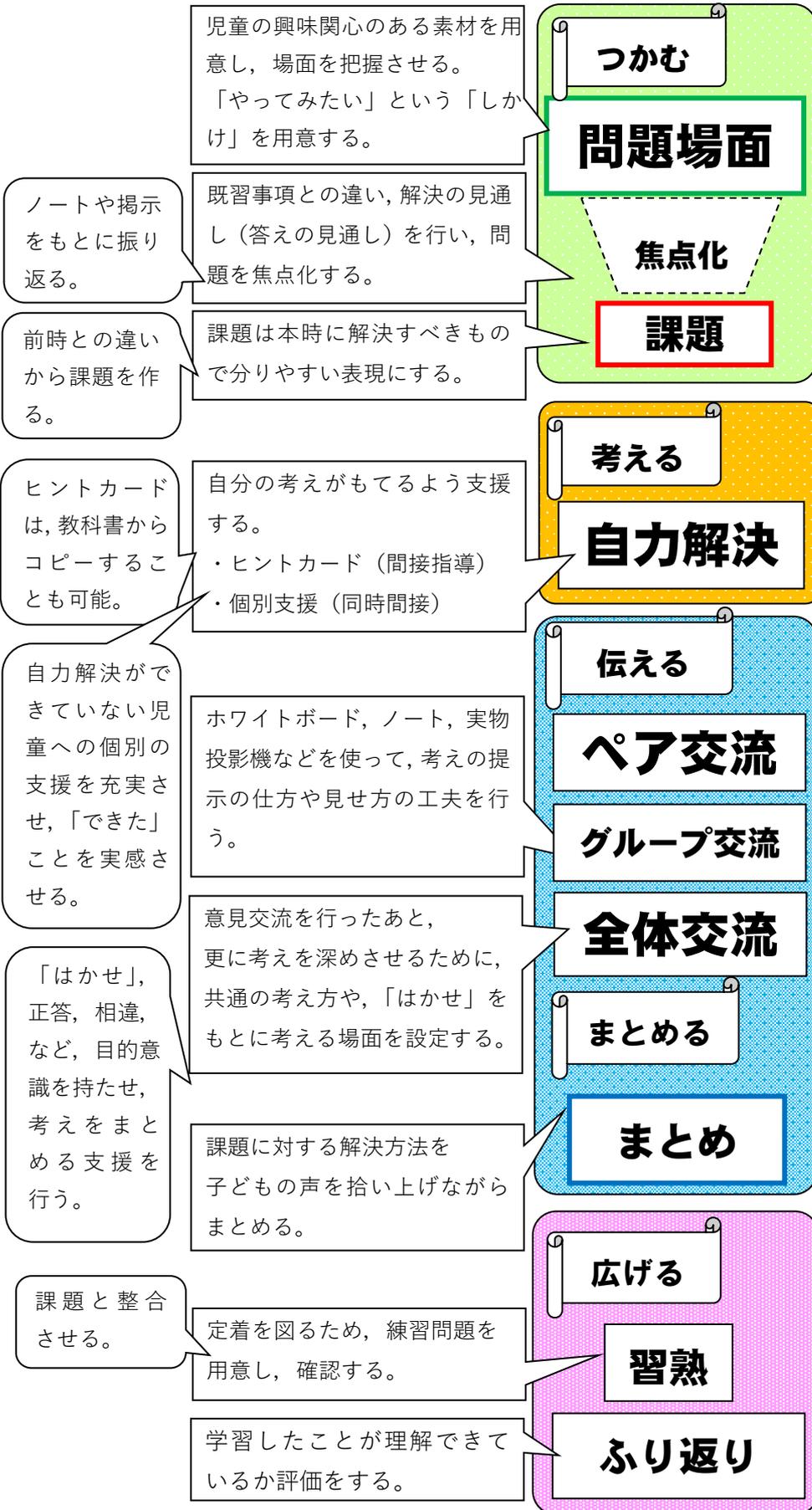
## ② 主体的対話的で深い学びをつくり出す学習過程

学習過程を統一することで、児童が学習リーダーを中心に安心して学習を進めることができる。

### 【教師の関わり】

### 【学習の流れ】

### 【学習の活動内容】



**前時の学習を振り返る活動**  
前時の学習内容を振り返り、既習事項の確認を行う。

**解決のための見通しをもつ活動**  
わかっていること、求めることを確認する。解決のための見通しをもつ。前時までの学習との違いを確認して本時の課題をつかむ。

**自分の力で課題に取り組む活動**  
自分の考えをノートに書く。発表の準備をする。

**自分の考えを説明する力をつける活動**  
自分の考えを相手にわかりやすく伝えるために、図・表・式などを使って工夫して表現する。

**練り上げられた意見をつくり出す活動**  
自分の意見が深められたり、友達の考えを理解したりすることで、聞き合える関係が深まり、協働的な学びが成立する。

**考えを見直し、深める活動**  
他者の意見を聞いて、一人一人がもう一度課題を振り返り、判断したり、見方や考え方を広げたりするための話し合いを行う。導き出した結論は、どの場合でも当てはまるのかを考える。

**学習を振り返り、定着を図る活動**  
本時の学習を振り返り、思考過程や算数用語を用いてわかったことを説明し合い、確認する。

### ③ 確実な定着のための指導方法の研究

単元構成の仕方（説明文の学習）を統一し、系統性をもたせた授業づくりを目指す。

子ども自身が「読解力」を深め、つながり、ひろがりを作り出す単元構成のしかた

#### 第一次（つかみ見通す）

子どもたちにつけたい「言葉の力」は何か。第三次の活動への意欲付け、目的意識をもたせるための活動を設定する。

#### ① 単元を通した【課題】の設定

（課題意識をもたせる～単元を貫いて学びを通す）

- ・題名読み ・範読
- ・全文通読 ・初発の感想

#### ② 学習計画の設定【見通す】

- ・教科書の「たしかめよう」「考えよう」「深めよう」「広げよう」「ここが大事」

をもとに考える。

相手意識を明確にした単元を貫く言語活動を位置付けるなど、教材文を目的をもって読むことができるようにする。ゴールをイメージさせることが大切。

また、そこへ至る道筋を学習計画で確認しながら学習を進める。

必要に応じて基礎的な学習内容を取り入れる。

（新出漢字、意味調べ、音読練習など）

#### 第二次（調べ考える／伝え合う）

子どもたちにつけたい「言葉の力」を身に付けさせるために一単位時間ごとの積み重ねが重要となる。

#### ③ 教材文の内容を通して、課題を解決するための知識・技能を学び取る。【知る】

- 「たしかめよう」
  - ・「はじめ」の部分の読み
  - ・「問い」の確認
- 「考えよう」
  - ・「中」「終わり」の部分の読み
  - ・「答え」の確認
  - ・筆者の主張（要旨）の確認
- 「深めよう」
  - ・「要旨」に対する自分の考えをまとめる
- 「広げよう」
  - ・交流し感想を伝え合い、考えを深める

基本的な学習を入れる。

・形式段落に分ける。

・構成「はじめ・中・おわり」を考える。

一単位時間の中で「課題」を解決するための「読みの視点」を明確にし、共通理解を図る。

各学年で身に付けさせる読みの力と用語についておさえる。

- ・低学年～「問い」「答え」など
- ・中学年～「要点」「要約」など
- ・高学年～「要旨」「批評」など

#### 第三次（振り返り生かす）

子どもたちに付けたい言葉の力がついたので、どのような活動ができていたら、つけたい言葉の力がついたので、見えるかを見取り、評価する。

#### ④ 自分が伝えたい内容に生かして表現【生かして身に付ける】

- 発達段階に応じた表現
  - ・初めに設定した課題を解決するための表現

#### ⑤ 相互評価や学習を振り返り、国語を学ぶよさを感じる【体にしみ込ませる時間】

- 交流
- 評価
  - ・つけたい言葉の力は定着したか

子どもが身に付けた言葉を発揮するための言語活動

- ・パンフレット
- ・リーフレット
- ・説明書
- ・要旨をまとめ意見文を書く など

応用問題や他教科との連携も。

観点を明確にした交流活動を位置づける。

・ふせん等の活用

学びの価値付けをして閉じる。

次の学習や生活に生かすことができる活動

#### ④ ねらいに即した言語活動の充実

単元を構成する際には、学習して得た知識や技能を使う場面を単元の中に設定することが大切である。具体的には、身に付けたことを生かす発展的活動から、教材文の特性や児童の実態に応じたものを取り入れるようにする。これによって、学習したことが単なる知識ではなく、使える力となり、子ども自身が「生きる『国語の力』」を実感することができるようになる。

### (2) 【視点2】 確かで豊かな読解力を高める授業づくり

#### ① 自己肯定感を育てる学級づくり～一人一人が生き生きと輝く学級を目指して～

学級づくりとは…「めざす学級の姿を明らかにし、教師と子どもの信頼関係や子ども同士の好ましい人間関係を築くことを通して、学級を一つにまとめていく取組」  
※学級は、すべての活動の基盤となるところというおさえのもと進める。

#### ② 学習形態の工夫

学び合いを通して、授業のねらいを達成させるためにそれぞれのよさを生かした効果的な学習形態を考える。(個別学習、ペア学習、グループ学習、全体学習)

#### ③ 学習リーダーの段階的指導について

【学習リーダー育成】～だれもが学習を進めることができるようにする～

第1段階～基本的な学習訓練 (学習規律を統一する。低学年から定着できるようにする。)

第2段階～学習リーダーの育成 (複式学級を見据え、低学年から訓練をする。)

第3段階～主体的に学ぶ学習リーダーと学級の育成

(高学年では、自主的に学習活動が行えるようになる。)

①学習リーダーが自分の言葉で司会・進行する。

②本時のめあて、話し合い、本時のまとめを学習リーダー中心に話し合う。

【期待する学習リーダーの姿】

低学年	中学年	高学年
○学習の準備ができ進捗表にしたがって進めることができる。 ○公平に、指名することができる。 ○指示したことがみんなに伝わっているかを確認することができる。	○多様な意見を整理し大まかにまとめることができる。 ○反対意見や補足意見を大切にすることができる。 ○学習したことを簡単にまとめることができる。	○多様な意見を整理し、共通点と差異点を判断できる。 ○話し合いの内容を自分の言葉でまとめることができる。

#### ④ 振り返り活動の充実

##### ア 効果的な振り返り

主体的に取り組み課題解決し、自分が思考して表現したことを友だちの表現と比較し見つけ直すことにより思考の過程を振り返る活動となる。1単位時間の中で学習したことを明確にし、それが次に生かされるような振り返りとなることが大切である。

##### イ 振り返り場面の設定

【「はじめ」の振り返り】・前時までの学習を振り返る。本時の学習に必要な事項を振り返る。

【「終わり」の振り返り】・本時の学習でわかったことや大切なことなど観点を与え、振り返りを確認し次時につなげる。練習問題に取り組みせ、本時で学んだことが定着できるようにする。

## 2. 今年度のまとめ

### 【成果】

- ・各学年で身に付けなければならない指導事項について系統性をもたせることを確認することで意識して指導することができた。
- ・学習過程を確認することで、児童も学習の流れがわかり自分たちで進めることができた。
- ・各学級での取り組みが統一されたものになると、4月から新しい学級になっても、誰が担任になってもスムーズに授業を行うことができるようになる。

### 【課題】

- ・交流場面で、もっと子どもたち同士での話し合いが深められるとよい。コロナ禍で子ども同士の対面での交流場面を持つことがなかなか難しい状況であったので、話し合いが深まらないことがあった。